

生物多様性データベース作成課題事後評価

生態系情報とリンクした生物多様性データベースの作成

日浦 勉（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授）

<事後評価>

長期観測プロットでの標本情報を提供したことで、同定が困難な種について検証されていることが評価される。当初計画を一定程度達成し、期待に応えた。今後は生態学的データとの十分なリンクが望まれ、継続的な情報の蓄積を期待する。

無脊椎動物の標本データベースの作成

山西良平（大阪市立自然史博物館 館長）

<事後評価>

他のデータベースと比較して情報点数が少ないことが問題ではあるものの、質の高いデータベース化が実施され、国内的にも国際的にも優れた生物多様性情報を提供したことは高く評価される。多くの参加機関との協力体制が確立されており、地域への貢献など、データだけにとどまらない成果を生んでいる。今後は画像データも加えることが望まれる。

甲虫および訪花性昆虫類データベース

多田内 修（九州大学大学院 農学研究院 教授）

<事後評価>

昆虫標本データベースとしての AIIC (Asian Insect Information Center) データベースを構築し、公開していることは高く評価される。今後は日本語データベースの充実と、標本総数に対するデータベース化の割合の向上が望まれ、甲虫および訪花性昆虫類以外の昆虫群についても研究者コミュニティにも積極的に働きかけ、データベース化に貢献することを期待する。

日本の海洋島に生育する野生植物種の標本データベースの構築

村上 哲明（首都大学東京 牧野標本館 教授）

<事後評価>

研究途中で参加機関が減少したことが問題ではあるものの、画像情報を含む海洋島植物標本というデータベースを構築したことは一定の成果と考えられる。標本総数に対するデータベース化の割合の向上が望まれ、英語版ホームページの作成等、構築されたデータベースが今後有効に利用されることを期待する。

京都大学瀬戸臨海実験所所蔵標本データベース
大和 茂之（京都大学 瀬戸臨海実験所 助教）

<事後評価>

他のデータベースと比較して情報点数が少ないこと、および関連機関との協力体制の構築が問題ではあるものの、対象とした分類群の範囲の広さにおいて優れており、長年の海産動物分類学の研究成果である標本を対象としたデータベースが構築されたことは高く評価される。今後は継続的なデータベースの拡充が望まれる。

鱗翅目データベース

上田 恭一郎（北九州市立自然史・歴史博物館 学芸担当部長）

<事後評価>

関連研究者の多い鱗翅類昆虫標本のデータベースが全て日本語・英語で作成されたことは、国際性という視点から意義のある成果であり、画像データの充実も高く評価される。網羅性および完成度が高く、使いやすいデータベースである。今後は東南アジア地域での本データベースの普及・活用が望まれ、更なる研究の展開を期待する。